



RI会長 ゲイリー・C.K.ホアン
第2640地区ガバナー 辻 秀和



2014-2015年
海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第1824回例会

平成27年3月23日(月)

12:30～ 海南商工会議所4F

会員卓話 会長エレクト 阪口 洋一 君

次期R財団委員長 楠部 賢計 君

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング

「手に手つないで」

3. 出席報告

会員総数 48名 出席者数 28名

出席率 58.33% 前回修正出席率 62.5%

4. 会長スピーチ

会長 山東 剛一 君

みなさん、今日は。昨日は御坊での2640地区IM2組の5年未満の新入会員オリエンテーションが開かれました。ご出席のみなさん、ご苦労さまでした。また、詳しいお話は御参加のみなさんにそれぞれ4月の第4週の例会でお話して頂くことになっています。入会5年未満の会員の方は、出席義務者となりますのでできるだけ万障繰り合わせてご出席の程次回はよろしく願います。

お願いついでに、3月に入ってからずっと社会奉仕委員会からお願いしていますが、書き損じハガキ、未使用切手、テレカとか日本円も募集しています。まだ目標には程遠いようですので、あらためてご協力をお願いします。

それと楠部さんから先週ニコニコでお話がありましたように、出席率の向上に一人ひとりが努力して、せめて70%をキープできるようにしたいものです。例会への出席の呼びかけなど、みなさんのご協力、よろしくお願いします。ありがとうございます。



5. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

○例会臨時変更のお知らせ

和歌山東南RC 4月1日(水)→4月1日(水)

18:30～ 夜桜例会 紀三井寺

4月23日(水)→4月23日(水)

18:30～ ルミエール華月殿

○休会のお知らせ

和歌山東南RC 4月8日(水)

6. 委員会報告

○社会奉仕委員会委員長 委員長 田中 祥秀 君

書き損じはがき、未使用切手、未使用テレホンカード、ポケットコインの協賛をお願いします。

7. 会員卓話

○会長エレクト 阪口 洋一 君

会長エレクト研修セミナーの報告

2月13日、14日の2日間会長エレクト研修セミナーが開催され、出席してきました。1日目は「ビッグ愛」、2日目は和歌山北コミュニティセンターで行われました。

2015～2016年度のRI会長はKRラビンドラン氏で、RIテーマは「世界へのプレゼントになろう」(Be a gift to the world)です。ラビンドラン氏はロータリー会員に、より良い世界をめざして、時間、才能、知識を



世界中の地域社会に贈るよう呼びかけています。

「ロータリアン会員が自らを『プレゼント』することによって、世界中の人びとの生活を真に改善できるのです。」と表明しています。

国際ロータリーの最優先目標は ①ポリオ撲滅

②会員増強 ③青少年奉仕としています。

☆ロータリーの特別月間

7月 特別月間の指定はありません。

8月 会員増強・拡大月間

9月 基本的教育と識字率向上月間

3月は識字率向上月間です
(Literacy Month)

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか
- ②みんなに公平か
- ③好意と友情を深められるか
- ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：山東 剛一

幹事：中西 秀文

SAA：山田 裕之

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp





グラムの約 900 人の卒業生の中には、増加するこれらの難民の再出発を支援し、変化の推進者として活動しているフェローがいます。ロータリー平和フェローシップは、タイ、オーストラリア、英国、日本、スウェーデン、米国にあるロータリー平和センターで学ぶ学生（毎年 100 名まで）にロータリーが奨学金を提供するものです。プログラムには、タイのチュラロンコーン大学での 3 カ月の修了証プログラムとオーストラリア、英国、日本、スウェーデン、米国の大学での修士号プログラムがあります。難民を支援する非政府組織や非営利団体で働く 4 人の元フェローが「The Rotarian」に経験談を語ってくれました。

ソマリアからエチオピアへ

マハマド・アフマドさん：ブラッドフォード大学、2008-10 年のフェロー

アフマドさんは 1988 年、10 歳のときに、家族とともに自国ソマリアの内戦を逃れるために自宅を後にしました。自宅がある村からはだいぶ離れた半自治地域の避難所に落ち着きましたが、料理のための水にもことかく生活で、周りには厳しい環境の中で命を落とす人もいたと当時を振り返ります。「14 歳になるまで学校に行けなかった」。学校に通い始めると、懸命に勉強に打ち込みました。12 年の学業課程を 4 年で修了、朝 6 時から夕方 6 時まで、勉強し続けた結果でした。「勉強するのが大好きだったので、その後の 13 年間で 4 つの大学に通いました」と強い信念の持ち主であり、ロータリーが自分を支えてくれたと言います。英国のブラッドフォード大学にあるロータリー平和センターで修士号を取得し、平和と紛争への理解を深め、新たな使命を見つけました。それは、自分が難民だったときに経験したさまざまな問題を解決できるよう手助けをすること。アフマドさんは現在、平和センターで身につけたスキルや知識を、ノルウェー難民委員会のエチオピア・プログラムで発揮しています。同委員会はアフリカ東部とイエメンに拠点を持ち、2013 年には 10 万人以上の難民を支援しました。さらに、エリトリア、ケニア、ソマリア、南スーダン、スーダンからの多くの難民に対し、教育や職業訓練も提供しています。

レバノンからカナダへ

ノエル・ディパブさん：クイーンズランド大学、2003-05 年のフェロー

レバノンのパレスチナ人難民キャンプでの仕事も含め、20 代のほとんどを海外で過ごしたノエル・ディパブさんは、2005 年にクイーンズランド大学でのロータリー平和フェローシップを終えたとき、今後も世界をまたにかけて親善を広める活動を続けていくのだろうと予想していました。「平和構築や社会正義のために闘う者として、どうすれば大きなインパクトを与えられる活動ができるか考えていた」とディパブさんは話します。そんなとき、ウガンダ出身のロータリー平和フェロー、ゴドフリー・ムカラジさんに大きな影響を受け、出身地であるカナダ、マニトバ州ウィニペグに戻る決意をしました。なぜならウィニペグは、カナダでも最大の先住民人口を抱えた都市部である

ためです。マニトバ州に移民としてやってくる人たちは毎年 15,000 人。アフガニスタン、ブータン、イラク、ソマリアやその他の国の出身者で、その 10%が難民です。これらの難民と、独自の課題に立ち向かうカナダ先住民とが独特な状況をつくりだしています。

ディパブさんは、移行住宅を運営し、退学の危険がある学生へのカウンセリングや放課後プログラムを提供するマニトバ 移民・難民のためのコミュニティ組織のスタッフとなりました。「若い難民の中には、カナダ生活に馴染むことができず、ギャングの道へ走ってしまう人がいます」。十分な教育を受けていない場合が多いこれらの若者は、難民生活の難しさに加え、学校での授業についていけずに苦勞していると言います。そこで、2008 年に若者のための平和構築プロジェクトを立ち上げ、先住民、難民、遠隔地の白人コミュニティ出身の若者を集めた夏季プログラムを実施しています。若者は水泳やバスケットボールで汗を流すだけでなく、ほかの文化や宗教について学びます。さらに、イスラム教の祈祷や先住民リーダーが先導する伝統的な儀式に参加し、幅広い活動を行います。

日本からケニアへ

寺西悦子さん：クイーンズランド大学、2005-07 年のフェロー

大阪での大学生活とは何か違ったことをしたいと切望していた寺西悦子さん。世界をこの目で見たい、そして人びとの役に立つ仕事をしたいと考えていました。そんな寺西さんは、2005-07 年にクイーンズランド大学のロータリー平和センターで学び、現在は、国際移住機関でプロジェクトマネジャーを務めています。ケニアのナイロビで危機対策ユニットを率いる寺西さんですが、このユニットは昨年、コンゴ民主共和国、エチオピア、ルワンダ、ソマリア、南スーダンからの難民、内戦と自然災害によって住宅を追われたケニア人 40,000 人を支援しました。「職のない若者や性的暴力の被害者をサポートするのが私たちの仕事です」と寺西さんは話します。

米国からマレーシアへ

ランガン・コートニーさん：チュラロンコーン大学、2012 年のフェロー

国際救援委員会の再定住サポートセンターでプログラムコーディネーターを務めるランガン・コートニーさんは現在、世界最大の難民都市であるマレーシアのクアラルンプールに拠点を置いて活動しています。同機関は毎年、1 万人の難民が米国で再定住できるよう支援を提供しています。2012 年にタイのチュラロンコーン大学ロータリー平和センターを卒業したコートニーさんは次のように話します。「何百万の人びとが難民キャンプに押し寄せてきます。ニーズの方が大きすぎて、受け入れ態勢が整っていないのが現実です」ロータリー平和フェローとして学んだことで、危機をさまざまな違った側面から検証することができるようになったと話すコートニーさん。「平和フェローシップには、さまざまな仕事を持つ人が集まり、外交に必要な実践的ツールを身につけることができます」